

公開セミナー（男女共同参画推進委員会） 「水環境分野において多様化する働き方とキャリアパス」報告

男女共同参画推進委員会 金沢大学 原 宏 江

男女共同参画推進委員会では、毎年、日本水環境学会年會に合わせて男女共同参画に関連する様々なテーマのセミナーを開催しています。2023年度は、男女共同参画の推進には、女性の働きやすさの向上だけでなく、ライフイベント等に応じた多様な働き方やキャリアパスがより多くの人に認知され、社会で一般的になっていくことが必要との認識から、公開セミナー「水環境分野において多様化する働き方とキャリアパス」を企画しました。性別問わず関わりのあるテーマではないかと思いますが、女性の中には、ユニークなキャリアパスを歩まれていたり、積極的に新しい働き方を模索されている方が多くいらっしゃいます。

そこで、第58回年會最終日の3月8日（金）に開催された2023年度のセミナーでは、水環境分野において多様な働き方やキャリアパスを実践されてきた、長濱 祐美さん（茨城県霞ヶ浦環境科学センター）、橋口 亜由未さん（岡山大学）、馬場 未央さん（株式会社東京設計事務所）を講師としてお招きし、ご経験を踏まえてライフワークバランスやキャリア形成についてお話しいただくとともに、グループディスカッションにて参加者の皆さんからのご質問にお答えいただきました。性別、世代、ご所属など様々なバックグラウンドをお持ちの方々、30名超がご参加くださり、時折笑い声上がるなど和気あいあいとした雰囲気の中で活発な質疑・意見交換が行われました（写真1）。

最初に講師一人ずつに自己紹介をしていただきました。長濱さんは、茨城県出身で、2010年に干潟域の食物網解析の研究で東北大学で博士号を取得した後、北海道大学で科学技術コミュニケーションに関わるポスドク、佐賀大学での水環境のポスドクを経て、現在は茨城県霞ヶ浦環境科学センターに主任研究員としてお勤めです（写真2）。ご専門は水環境学、環境生態工学で、有明海や霞ヶ浦を主なフィールドとして研究を行ってこられました。精力的な研究活動の裏で、若手女性研究者のキャリア形成支援にも熱心に取り組まれており、共同編集者として「理系女性のライフプラン あんな生き方・こんな生き方 研究・結婚・子育てみんなどうしてる？」（メディアカル・サイエンス・インターナショナル、2018年）を上梓されています。10年間以上保育園への送迎を行ってきたご経験から、乳幼児期のワークライフバランスについてお話いただきました。

一方、橋口さんは、東大阪市出身で、京都大学で博士号を取得した後、香港科技大学でのポスドク研究員、島根大学生物資源科学部の助教を経て、現在は岡山大学工学部に助教として勤務されています（写真3）。ご専門は環境中の微量汚染物質の分析であり、質量分析、放射線分析、有機化合物の構造解析などを駆使して、国内外で幅広い研究テーマに取り組んでこられました。同じく大



写真1 会場全体



写真2 長濱さん



写真3 橋口さん

学教員としてお勤めの夫とはご結婚以来離れて暮らされていることから、単身赴任ならではの懸案事や意外なメリットについてお話ししてくださいました。

最後に、馬場さんは、札幌市出身で、北海道大学で修士号を取得後、東京設計事務所に入社され、20年以上にわたって水道計画・調査業務に従事されてきました（写真4）。15年目以降は部署のチームリーダーとしてご活躍



写真4 馬場さん



写真5 グループディスカッション

ですが、一方で、時短勤務や在宅勤務を駆使して2人のお子さんの子育てもしてこられました。コロナ禍を経て在宅勤務が制度化されたり、ウェブ会議やペーパーレス会議の導入、AI活用など、新しい働き方を模索する動きについてご紹介くださいました。社会環境や仕事のやり方が変わりつつある中で、変わらずに重要な水環境や水インフラをどう維持するかについて問いかけがありました。

講師からの自己紹介に続いて、4~5名1グループとして3つのテーブルに分かれ、15分ごとに講師を入れ替えて質疑を行いました(写真5)。グループディスカッションでは、育児休業に関して、実際に取得可能な期間は職場や状況によって異なるという意見がありました。また、将来の家族のサポートやプライベートの充実を考えると、就職活動ではどこに勤めるかだけでなく、どこに配属されるか(勤務地)も重要との声が上がりました。子育てと自己研鑽の両立についてアドバイスがあった一方、頑張りすぎて体調を崩した経験にも話が及び、周囲とのコミュニケーションや自己管理の重要性が改めて指摘されました。中には、子育てと仕事の両立のために転職を検

討しているケースもあるようです。ただ、コロナ禍で在宅勤務が導入された職場に勤める参加者からは、仕事と家庭の両立がしやすくなったという声が多く上がりました。コロナ禍が人々の働き方、ひいては職業観にも少なからぬ影響を与えたことを改めて感じました。

セミナー後のアンケートでは、具体的な話や実際の体験談を聞いて参考になったという嬉しいご感想をいただきました。また、男性参加者からはキャリアに関する話や、子育てをする上での会社や上司のサポートについてのアプローチについて学べたという声も寄せられました。学生の参加者には、講師の方々だけでなく、多様な分野で活躍する他の参加者の皆さんとの交流の機会になったようです。男女共同参画推進委員会では、2024年度も、水環境分野における男女共同参画の推進に資するセミナー等の企画を行ってまいります。ご意見・ご要望などがありましたら、当委員会の委員長・幹事までお寄せいただけますと幸いです。今後ともご支援・ご協力のほど、何卒よろしく願いいたします。